ぐんまの家
Gunma Housing Award

優秀賞
（アイデア住宅賞）

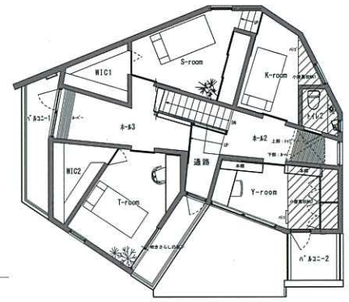
回遊の家

設計者／有限会社HIRO建築工房
施工者／有限会社阿部建築

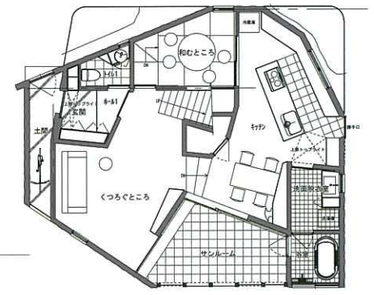
設計趣旨 CONCEPT

ここ大利根団地で生まれ育ったご主人。両親から実家を引き継ぎ、次世代の子供たちに引き継げる家を建替える計画だった。近隣住宅には、同世代は外に出て行ってしまい、ほぼ残っていない状況。この団地に住むよさを見直し、住み続け、みんなにこの団地のよさを知って欲しい。そして、出来れば自分の子供に住み続けてほしいと計画。しっかり区画された敷地に充分な余白を持った住宅団地であるが、庭なども前面家の真裏などになってしまい影となり、隣家との交流は少ない。整った正方形の区画は、隣接する家同士が平行になってしまうため、近距離でありながらも閉鎖的であったようだ。本計画では、あえて角の無い平面計画とすることで、隣地接点部に共有に見える庭が出来るのでは？と考えた。このような庭を一つの提案として、近隣に増えると共有の豊かな庭が発生する。すると、その庭越しに近所のコミュニティーが生まれるのではと考え、このプランとなった。また、家族内の問題として、次男の病気があった。なかなか一人で外出できない問題を抱えたなかで、閉鎖的にならず家の中で快適に過ごせるように、回遊性のあることが望まれた。同時に、親の留守時や夜の就寝時などしっかり外部との区画をすることが望まれた。特に2階は、家族の状況に応じて仕切りを変化させることで、子供の安全確保が強く望まれた。機能を活かした上で、それを形で表現した家を計画した。

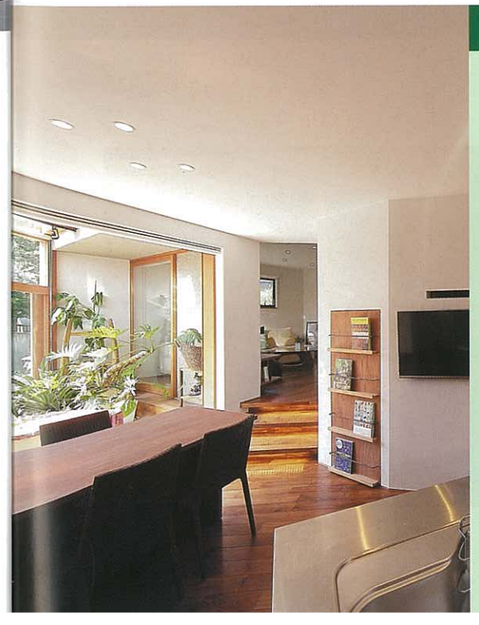
平面図



2F



1F



講評 REVIEW

昭和40年代につくられた大規模住宅団地の一画、そこで生まれ育った施主が親から引き継ぎ、次世代の子供達に引き継ぐことを考えた建替え計画。同世代が少なくなった地域で、その場所に住み続ける良さを感じ、価値を感じる環境が欲しいとの願いがつまった住宅です。

整形な敷地に対して角を落とした平面計画とする事で隣地との境に広がりを持たせ、道路との境をオープンにする事により住宅地における共用空間の創り方のアイデアを街に示しています。

室内は施主の希望でもある、家の中でも閉鎖的にならずに快適に過ごせる為の工夫として、回遊性のあるプランが高さを変えて繋がり、南側のサンルームやトップライト、開口部の組み合せにより明るく、使いやすい空間が実現されています。

家族や敷地内だけなく、地域にも向けられた施主の想いを設計者、施工者が上手く形にしたアイデアが沢山つまった愉しい住まいです。